

## ■スタートラインに立つ

秋も深まってまいりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

これまで数回にわたってユニティの新たなスタンダード、つまり仕事の考え方の基準についてお伝えしてきました。それらは、『心と現実はつながっている』『whatを問う』『弱さや失敗を大切にする』『心を見つめる』といったものでした。まだまだ新たなスタンダードとしてお伝えしたいことはあるのですが、今月はそういった考え方が実際どのようにユニティの運営に役立てられているかをお伝えしたいと思います。

この一年、ユニティの各部署や社内プロジェクトにおいて上記のスタンダードを基とした話し合いや取り組みが行われてきました。例えば役員会でも、whatを問う話し合いを何度も重ね、そもそもユニティとは何かについて話し合い、ユニティのあるべき姿、役員として私たちがどうあらんとするかを探求してきました。そして、経営の指針として、この会社を一つの大きなコミュニティとして、あるいは一つの大きな家族として大切に守り育むという願いを確かめました。また、役員一同は経営陣である前に一人の人間であることを大切にし、ユニティに関わる全ての人たちとともに「みんなが幸せに生きる」という経営理念を実現するという強い願いを確かめてきました。

当然のことながら会社には様々な試練が日々やってきます。ややもすれば、試練が来ると不安になったり、逃げたくなったり、怒ってしまったり、あるいは根拠もなく楽観視して問題を先送りしてしまうといったこともあると思います。しかし、whatをしっかりと確かめ、何が目的であり、何を願っているかを確かめてきたおかげで、私たち役員は試練に対する受け止め方が違って来たことを実感しています。不安にのまれそうになる心を見つめ、立て直し、目的に向かって今出来ることに集中するという姿勢が育ってきたのです。試練は決して避けるべきものではなく、私たちの成長を促す呼びかけなのだという理解も深まってきました。

ユニティの新たなスタンダードは決して単なる精神論ではありません。厳しい現実や試練の中で道を切り拓くリアルなものに他なりません。心と現実をつなぎ、厳しい現実を目的や願いのレベルに引き上げていく新たな挑戦なのです。今まさに、そうした挑戦がはじまり、私たちはそのスタート地点に立ったのだと確信しています。

代表取締役社長 八木 陽一郎